

平成28年度第1回北海道病院事業推進委員会 議事概要

1 日時及び場所

平成28年6月13日（月） 18:00～20:00

北海道立道民活動センター（かでる2・7） 10階1040会議室

2 出席者

（委員）佐古委員、谷口委員、土橋委員

（道側）山中室長、三瓶室次長、佐藤参事、竹澤参事、小俣経営改革指導官、
道立病院室各主幹、主任技師、主査 ほか

3 議事概要

（1）協議事項

① 委員長選出等

委員の互選により、佐古委員が委員長に選任された。

また、北海道病院事業推進委員会条例第5条第4項による、委員長に事故がある
ときの職務代理者に池田委員が指名された。

② 会議の情報公開について

会議の情報公開について、事務局から、会議は個人や法人の権利や利益が侵害さ
れるなどの場合を除き、原則として公開で行う旨の説明があった。また、本委員会
についてはすべて公開とすることについて、委員に異議が無かったため、そのとお
り決定した。

③ 点検・評価の実施方法（案）について

事務局から標記について説明があり、委員から了承された。

（2）議 題

① 平成27年度 道立病院経営状況・取組実績について

② 平成27年度 新・北海道病院事業改革プラン点検・評価書（自己評価）につい て

・事務局から標記について説明があった後、質疑応答、意見交換が行われた。

4 委員の主な発言

○ 医師確保に関し供給元である医育大学への派遣要請を継続的に粘り強く取り組む
こと。

○ 道外の医師募集活動について、コストに見合う成果が得られているかについても
一度検証するべき。

- 医療機器について、購入時は安くても保守費用を高くされている場合があるため、保守専門の業者に道立病院の機器を一括委託し、費用を抑える方法もあるのでは。
- 医療機器は寿命が決まっているので、その間に院内で還元できないのであれば、周辺の医療機関から患者を集めることが必要になる。
- 高額医療機器の購入は、保守点検も含めた価格を十分検証し、機種選定についても検証する体制作りを検討すること。
- 地方にある道立病院の場合、公共交通機関での通院が難しい患者も多くいるため、送迎バスなどの通院補助を検討してはどうか。
- 手数料について、現在無料で発行している診断書で有料化できるものは有料化するべき。
- 費用の縮減については毎年かなり頑張っていると評価している。それを数値で出して職員にも周知することが必要。
- 医療クラークやM S Wの配置について、人件費に見合う効果が出ているかの検証、入退院支援の詳しい分析も実施して欲しい。
- 江差病院について
 - ・ 地域包括ケア病床は急性期の受け皿として大事な機能であり、地域住民へのサービスの向上にも繋がるので、早期に整備すること。
- 北見病院について
 - ・ 実績はほぼ全て前年度を上回っており、目標比でもかなり近い数字となっている。
 - ・ 呼吸器内科は北見日赤病院側にはないので非常に有望。ただし、非常に高額な抗がん剤の使用には注意が必要。
- 羽幌病院について
 - ・ 医者の配置数に対し、入院患者数が非常に少ないように見える。急性期も含めどういう医療を提供していくかを明確にする必要がある。
 - ・ 4階病棟利活用の検討を具体的に進めるべき。
- 緑ヶ丘病院について
 - ・ 非常に良い成績なので引き続き頑張ってもらいたい。
 - ・ 児童思春期医療の需要を把握し、併せて専門医の確保を検討すること。
- 向陽ヶ丘病院について
 - ・ 精神科の患者も高齢になっているので、交通手段がないと通院できない場合がある。送迎バスなどのサービスがあると増えるのか検討してはどうか。
 - ・ 認知症疾患医療センターは地域で他にはないので、地元だけではなく、広域で患者を集めるように頑張ってもらいたい。
- 子ども総合医療・療育センターについて
 - ・ 平均在院日数が短くなって病床利用率が落ちているのは病院全体でマネジメントされていないという印象。

- ・ NICUの稼働率を維持すること。
- 医療従事者の処遇について、道立病院所在地の近隣病院とも比較し、改善を検討すること。
- 地域医療構想との連携を図りながら、適切な病床数や人員を見定め、道立病院がこれから担う機能・役割を明確にすること。